

「今ここをいきる姿～海を越えた笑顔と響き～」

北海道 ましけ 増毛町 てんそうじ 天總寺 住職 谷 りゅうじ 龍嗣

大本山總持寺の横を流れる鶴見川を渡ると横浜市立潮田^{うしおだ}中学校があります。13年前、私はその中学生の皆さんに救われたことがありました。

平成21年12月12日、私は「さいたまスーパーアリーナ」で指揮をしていました。僧侶をしながら母校の高校マーチングバンドを指導しており、北海道代表として初の全国大会に出場し大舞台に立たせてもらっておりました。

しかし、その全国大会まで生徒達は、何度も壁にぶつかり毎日必死に練習をしていました。私も上手に指導が出来ない日々が続いていたある日、アドバイスを頂いていた講師の方から「この中学校の演奏を見てごらん」と1枚のDVDを紹介して頂きました。

演奏は勿論素晴らしかったのですが、それ以上に、映像に写る学生達の堂々たる姿とキラキラ輝く笑顔に、当時の私は心を奪われました。その学生の姿こそ、私が總持寺の修行中に托鉢修行で何度も近くを通っていた潮田中学校のマーチングバンドの演奏でした。

その笑顔の裏には、苦労も、悩みも、悔し涙も、そして多くの方の支えがあると思うのです。その全てを含んだ一人一人の姿に感動し、何度となく「勇気」や「元気」や「幸せ」を頂きました。

いま、ここを精一杯生きる姿は、地域を超え多くの人に思いを伝えることが出来ます。毎日、總持寺で厳しい修行をしている修行僧の姿は、正に「今ここを精一杯生きる事と向き合っている姿」でもあります。

お釈迦様は、今ここを生きるという行いのなかで「慈悲」の教を示しています。慈悲とは「慈しみ」だけではなく「悲しみ」という文字も書きます。人は「つらい事」「苦しい事」「悲しい事」を知るがゆえに「大丈夫?」「何かあったの?」と相手に「慈しみ」の心を寄せることが出来ます。そうすれば、相手との繋がりが生まれます。その繋がりは、相手と自分との間の仕組みが合う事になり、いつしか「仕」組み「合わせ」が「仕合せ(幸せ)」になって行くと中学生や修行僧の姿から教えて頂きました。

コロナ禍、様々な悩みが生まれ、心も体も調わない時があるかと思います。そんな時は、コロナ対策をしながら、是非とも總持寺に「今を生きる修行僧の姿」を見に行ってください。もしも、演奏を聴く機会があれば横浜市立潮田中学校マーチングバンドを応援してみてください。きっと、あなたも元気をもらえます!